

決意新たに太平台に惜別

▶ 総代に卒業証書を授与する岡野弘彦学長
(写真は昨年度卒業式より)



▲ 卒業生を代表し答辞を述べる

蒼天に羽ばたく三五三名 卒業式 第40回
岡野弘彦学長ご勇退
新学長に中村幸弘 國學院大學
名誉教授



國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第153号

はるばるとなりゆく人か
海棠の花咲きそめし庭に
わかるる
“滄浪歌”
岡野弘彦

岡野弘彦

第四十回卒業式は、三月十八日午前十時三十分より学園四十周年記念館を式場として多数の来賓・ご父母・教職員が列席し、厳粛且つ盛大に執り行われる。

式は国歌斉唱で始まり、岡野弘彦学長から各学科の総代に卒業証書が授与される。総代をつとめるのは、国文学科は星野愛さん、家政学科は江川薫さん、初等教育学科は森文乃さん、日本史学科は渡邊亜祐香さん、商学科は飯塚亮子さんである。

岡野学長告辞、木村好成理事長祝辞のあと、福田富一栃木県知事、本学同窓会「斯花会」代表、八期国文学科卒業前橋(旧姓笹井)陽子さんから来賓祝辞をいただく。在学生を代表し小林裕貴学生会長(国文学科一年)が送辞を述べ、卒業生を代表し初等教育学科の高橋亜弓さんが答辞を述べる。「仰げば尊し」を合唱のあと、卒業生記念品目録が江口博子前学生副会長から岡野学長に手渡される。最後に校歌斉唱、「蛍の光」を合唱して式を閉じる。

卒業式終了後、岡野弘彦学

長が今年度でご退任につき、新学長にお迎えする中村幸弘國學院大學名誉教授が紹介される。岡野学長の在職期間は十二年に及び、この間六一〇〇名を超える卒業生を送り出してこられた。

佐々木賞を六名に授与

この賞は佐々木周二前理事長記念奨学金制度を基に作られたもので、各学科の成績・人物ともに優秀な者に賞状とブロンズ像が授与される。

国文学科 星野 愛
家政学科 江川 薫
初等教育学科 高橋 亜弓
森 文乃
日本史学科 渡邊亜祐香
商 学 科 飯塚 亮子

卒業制作品買上げ一点
初等教育学科四〇期生
小泉 由貴(水彩画)

第40期卒業生数

()内は第1期生より通算

国文学科	70名(6,902)
家政学科	80名(4,389)
初等教育学科	91名(6,050)
日本史学科	78名(2,096)
商学科	34名(1,866)
総数	353名(21,303)



後には学園功労者として法人理事にご就任になる予定である。また、後任の学長には、中村幸弘國學院大學名誉教授・文学博士（七十三歳）が、同日の理事会で選任され、本学第六代学長にご就任なさることになった。

岡野弘彦学長ご勇退

六期十二年の任期を満了

平成十八年十二月四日に行われた第二七二回法人理事会において、かねてご高齢であることをもって退任を希望されていた岡野弘彦第五代学長（八十二歳）は、本年三月三十一日をもって学長六期十二年の任期を満了され、ご勇退なされた。なお、今

新学長に国語学の泰斗

國學院大學名誉教授 中村幸弘文学博士のご就任



平成十八年十二月四日に行われた第二七二回法人理事会において、学長六期の任期を満了されて退任なさる岡野弘彦学長の後任として中村幸弘國學院大學名誉教授が第六代学長に選任された。

中村幸弘先生は、昭和八年

岡野弘彦学長は、学園の上でも歌人としても、國學院大學の至宝と讃えられる釈道空・折口信夫先生の学統を受け継がれておられる。

先生は平成七年四月一日に本学第五代学長にご就任され、以後六期十二年に亘って学長の重職を勤められ、数々の功績を重ねてこられたが、本年三月三十一日をもって六期目の任期を満了され、ご退任なさることになった。今後は、学園功労者として理事にご就任になり、学園の運営に携わってくださることになっている。

先生は、大正十三年七月七

九月二十五日のお生まれで、千葉県の出身。

昭和二十七年三月、千葉県立大多喜高等学校卒業。四月、國學院大學文学部入学、三十一年三月卒業。

三十一年四月、千葉県立佐原第一高等学校教諭、三十七年四月、千葉県立大原高等学校教諭を経て、三十九年四月、國學院高等学校教諭、四十六年四月、國學院大學文学部専任講師、四十九年四月助

岡野弘彦先生のご功績を讃える

理事長・学監 木村 好 成

生の家にあつて、その没年まで生活を共になされた。二十三年から二十六年まで國學院大學研究科に在学。二十六年國學院大學文学部兼任講師。二十八年九月三日折口信夫先生没。三十二年國學院大學文

られ、以後現在に至る。五十八年折口博士記念古代研究所所長。五月、宮内庁御用掛。六十三年紫綬褒章受章。平成三年三月、國學院大學専任教授を辞され、六月名誉教授。四年短歌誌「人」を終刊。七

教授、五十八年教授、学内入學試験委員長、教務部長などを勤められた。平成十六年より大学院講師となり、十七年四月から弘前学院大學大学院教授に就任されておられた。

なお、先生は戦後の昭和二十六年、学校柔道復活時高校生三年生で、その当時から柔道に精進されて講道館柔道四段で、木村好成理事長とは國學院大學での同期生で、大学時代の柔道部仲間である。

年四月本学学長に就任された。また、十年日本芸術院賞を受賞され、日本芸術院会員となられた。同年勲三等瑞宝章を受章された。主な著書に歌集『冬の家族』現代歌人協会賞受賞。『折口信夫の晩年』、歌集『滄浪歌』（逍空賞受賞）、歌集『海のまほろば』芸術選奨文部大臣賞受賞。『随想集』『花幾年』、『神がみの座』、『天の鶴群』読売文学賞受賞。本年発行された歌集『グダツト燃ゆ』砂子屋書房で現代短歌大賞を受賞された。先生の今後のご健勝と、益々のご発展ご活躍をお祈り申し上げます。

卒業生に贈る言葉

命の母語を大切に

学長 岡野弘彦



私は時に世界地図をとり出して、日本列島の姿を見つめることがあります。後ろに巨大なアジア大陸を背負って、太平洋に向かってせい一杯身を反らす小さな列島の姿は、見ていて切ない思いがします。

弓なりに身を引きしぼる列島を咲きさかのぼる桜前線いま、列島をくれないに染めて、桜が咲きのぼってゆきます。遠い古代、このアジアの東の涯へ、さまざまな情熱に馳りたてられて、大陸の各地から人々が移ってきまし

た。その窮極の地がわれわれの住む列島で、ここから西は漕ぎもしない蒼い海です。

アジアの先端、アジアの窮極のこの列島は、四季の変化豊かで、風光の美しい火山列島で、そこに住む人もまた美しい心と熱い情熱に富んでいます。その人々が心に感受した思いや、願わしい情熱は、物語と歌の形で表されます。

文字以前の遠い古代から、現在まで「語る」と「歌う」という二つの表現によって、人々の心は表現され、伝達されてきました。日本人の文学表現は今も、その伝統を受けて、物語の流れを継ぐ小説や戯曲と、歌の流れを継ぐ和歌・俳句詩から成っています。

中には、自分の作品はそんな伝統的な世界から独立した存在だと主張する人があるかもしれませんが。しかし、その作品が日本語で表現されている限り、われわれは日本人としての心の伝統から離れることは有り得ないのです。

文学以前の伝承の時代から、漢字・漢文隆盛の時代、そしてやまと言葉による和歌・物語の復活の時代、さらにヨーロッパ文芸思潮の影響を受けた近・現代、さまざまな変遷を経ながら、日本人の表現としての日本語は、磨かれつづけ生きてきました。

現在われわれは、インターネットやケイタイ電話で、軽便に、機械的に、意志を伝えあい、情報を得ています。半世紀前の日本人の知らなかつた便利さです。しかしその便利さのかけで、言葉は機械的に均一化し、平板になり、文体は乾いて緻密さを失いはじめました。

私は一年間に十万首以上の短歌作品を読み、良い歌を選出したり、批評したりします。その体験から言うと、最近の短歌作品は、言葉が心をとまなわず、ただ事柄の説明に終って、叙情詩としての短歌本来の力を失う傾向が眼につき

ます。テレビもインターネットもケイタイ電話も電子辞書も、軽便だけれども、緻密に連想を働かせ、深く心でとらえる

努力をしないと、平板で表面的なことしか伝わらないことになりがちです。

われわれが等しく感じている、正体の知れない漠然とした現代の不安感、殊に若い人たちの心を不安定にしている原因の一つは、現代社会における人間どうしの心の伝わり難く知り難い不気味さでありましよう。言葉が、和歌の表現の機能をいう言葉でいえば、「正述心緒」――まっすぐに心を述べるのはたらき――を失いつつあるのだといえましよう。

しかもそれは、日本人だけの問題ではなく、今や人類共通の問題であると言わなければなりません。安易に、自分たちの母国語を大國の言葉に替えてしまおうとする動きが、世界的に起きています。日本人も戦争に負けて半世紀の間の言葉の変化を考えれば、背筋が寒くなるような気がします。

美しい自然と、心こまやかな文芸を生み伝えてきたわれわれは、今こそその誇るべき伝統に立ちかえって、心と言葉のすこやかな力の回復につとめることが急務だと思います。

母なる言葉の力を失った民族は、この狭くなった地球の上の心の漂泊者、魂のさすらい人としての運命をたどるばかりはないはずで

実は、本日の卒業式をもつて、十二年間つとめました私の学長としての任を、ほぼ終了したことになります。

長い間の皆さんの暖かくありがたいご協力を得て、その任を終えることを、篤くお礼申します。

今日、この式場で申しましたことは、同時にこの学園に将来かけて願ひ残しておくべき、私の心からの言葉であります。どうか、日本人としての、真実こめた力ある言葉を大切にして下さい。美しく力ある言葉、心と心にひびきあう言葉こそ、われわれの未来を生み、世界の人々と共存しあうための、民族の命の泉であると信じます。

卒業生の皆さん、そしてご家族の皆さん、また在学生、教職員の皆さん、ありがとうございました。

この学園の末永い繁栄を心から祈ります。さようなら。

卒業生に贈る言葉

知識人としての責任を果たそう

理事長・学監

木村 好成



平成十七年の春に迎えた第四十期生も、二年間の蛻雪功成つていよいよ卒業、おめでとうございます。

本学での学びの期間は修了しましたが、これからさらに、四年制大学へ進み専門の学業を積まれる方、社会人として職に就かれる方、直ぐに家庭に入る方と、それぞれの進む道はことなるかとも思いますが、各自の人生の前途に幸多きことを願ってやみません。

現在、私たち日本人は世界中で最も恵まれた状態で通常の生活を送っているように思われますが、近隣諸国との外交問題や国内の政治・経済・

治安等を細かく観ますと、決して楽観は許されない状況が現出しています。それは、人びとの心に日本人としての誇りが失われているからだと思えます。社会生活における公德心の欠如が助長されて、不作法な行為が蔓延し、経済の面においても、私利私欲にのみ走る傾向が人びとの間に観られます。

今こそ、国民一人ひとりが冷静に、そして的確に判断して、自らの国の将来を誤りない方向に導かなければなりません。そのためには、先ず皆さんが本学で学ばれた国学の精神のうえに、さらに新たな知識を加えて、時に応じた適切な行動がとれるような人物になるための研鑽を積まなくてはなりません。毎日を知的に過ごしてください。日本人の爽やかさ、勤勉・謙讓・礼節・勇氣・忍耐・優しさといった美德を、人びとの間に呼び起こすことによって、世のため人のために貢献されることを切に希望します。

会話すること

教養科目・教授

佐藤 圭一

若いときの経験ですが、街角で、電車内で、お店の中だと、様々な場所での年配の方から声を掛けられて、色々な話をしました。名前も住所も経歴も知らない方との短い会話ですが、進路についてのアドバイスや励ましを感じたものです。

現在、地球規模で情報が共有されていることは既によく知られていることです。それに対して、基本的な価値については激しい対立があることもよく知られていることです。基本的な価値の対立の原因は幾つか考えられるでしょうが、コミュニケーションの不足からくる誤解もその一因です。



ればなりません。でも、年齢の違う様々な世代の人とのコミュニケーションは、忘れていたことを思い出させてくれ、新しい発見が出来、豊かな心になってくれます。職場や進学先では、世代の違う人たちとの積極的なコミュニケーションを願っています。

覚知しながら

国文学科長・教授

林田 孝和



『法華経』五百弟子受記品に「無価ノ宝珠ヲ以テ其ノ衣ノ裏ニ繋ケ、之ヲ与ヘテ去ル。其ノ人酔ヒ臥シテ都テ覚知セズ」という一節があります。ある人が親友の家に行き、酒を飲み交わしていたが、親友は急用ができて帰った。そのさい「無価の宝珠」をその人の衣の後ろに付けておいた。その人は、その後生活に困窮したが、宝珠を持っていることに気づかなかつ

た。後年親友と再会して初めてそのことを知った。これは『古今集』などにも採られている法話です。

「無価の宝珠」とは、はかり知れない価値をもった宝玉で、欲しいものがないままに出せるという不思議な玉のことです。こうした如意宝珠を持っていたとしても、それを覚知しなければ、価値は全く持っていないのと同じだ、と説きます。

自分自身に他の人にはない才能が備わっているとしても、それを覚知しなければ、ないものと全く変わりません。あなたたちそれぞれが、生来持っている才能や生活力を覚知しながら、個性的に生きてください。一回しかない人生です。

危険な食情報

家政学科長・教授

北村 奉正

今年になって、全国のスーパーの棚から納豆が一時消えるという異常事態が起こりました。納豆に「ダイエット効果がある」と信じた人々が殺到した結果です。一日二パツクを朝晩食べ続けると二週間



響きが、心に残る...

初等教育学科長・教授
山口 令司

今年の定期演奏会は、素晴らしかった！。

で数キロやせたという事例が放映されたからです。このことが真実ならば、科学的根拠が必要ですが、それを証明する数値などが捏造とは、視聴者を欺く行為で悪質です。

納豆が健康に良いことは歴史的に実証されており、体重のコントロールは適切な食事と地道な運動以外に方法はありません。巷には。。ダイエットと称するものが氾濫していますが、これさえ食べれば健康的にやせられるというような話は存在しないはずですよ。色々な食品をバランスよく摂取するのが一番です。

我々には、受け取った情報を一応疑ってみるという賢さ（クリティカルシンキング）を身につける必要があります。食情報に極端な対応をしてみようこと（フードファディズム）は危険です。食は命の源です。健やかに賢く生きましよう。



去る二月四日、栃木市文化会館大ホールで開かれた第二十九回定期演奏会は和みのある、温かな調べに包まれた心地良いひとときでした。
「木下牧子アカペラ・コーラス・セレクション」と銘うった、あの澄んだ柔らかなみのある美しい歌声が、碧り豊かな音色となって今もなお耳の奥に響いています。
粹ないで立ちで、私たちの目を楽ませてくれながらの鮮やかなパチさはきから繰り出される踊るリズムの数々。そして、元氣一杯に歌い上げた怪獣のバラード。
それらの全てが、今年の皆さんから私達への素敵な贈り物でした！。

小川裕二先生が「定期演奏会に寄せて」と題して書いておられた「心を浄化する音楽教育の意味の再認識」まさにその一言に尽きるようなひとときでした。
忘れえぬ感動の数々のプレゼント。
どうも、有難う！

『三国志』からひとこと

日本史学科長・教授
田中正弘



昔、上京当初、普段使い慣れた「だいじょうぶ」という言葉を、東京では「へいき、へいき」と表現し、その軽やかな響きに驚いたものです。「だいじょうぶ」は、漢字では「大丈夫」と書きます。

私は少年時代、夢中になった本の一つに吉川英治の『三国志』があります。確かその中である人物が、貧賤や威武に屈せず、また富貴にも惑わされずに信義を貫く士を「大

丈夫」という、と万丈の気概を吐いていたと記憶します。

この典拠は、陳寿の正史『三国志』か、又は『三国志演義』にあるのかも知れませんが。

また後年になって、魏の曹操、撤退時の軍令「鶏肋」の故事に因む「外務省記録」の存在も知ることになりました。「鶏肋」とは、大して重要ではないが捨てるに惜しいものという意味です。

みなさん、若人の特権は、どのような世界であれ、積極果敢に挑戦できる多くの可能性を秘めていることにあるのです。どうか謙虚にして誠実、信頼される豊かな人生を歩んで下さい。だいじょうぶ

歴史への刻印

商学科長・教授
飯田 晶夫



ある本を読んでいて驚いた。フランスの女性が参政権

をえたのは、一九四四年と先進国の中で最も遅いのだ。一番早い国はニュージーランドで一九九三年、ソ連一九七七年、カナダ・ドイツ一九八一年、アメリカ合衆国一九二〇年、イギリス一九二八年、日本は一九四五年である。

ではなぜフランス革命（一七八九年）の国で一五〇年余も女性に選挙権がなかったのか。この本を読み進めると、この国ではカトリック教会の影響力が強く、女性に選挙権を与えると教会に結びついた王党派に票が流れ、共和政を守れなかつたからだということが分る。

フランスではいまでも、女性票を除けば左派の大統領が勝つたなどという選挙評がみられる。翻って日本では今後、女性票はどう動くのか。いま言えることは選挙の度に君の一票は、敗戦という貴重な代償を払って手にしたもので、投票とは君が歴史の一員として刻印を押す行為だと考えて欲しいということだ。

なお、ある本とは工藤康子『宗教VS・国家』講談社現代新書（二〇〇七・一）。

卒業生に贈ることば & 卒業生氏名

国文学科 一組

未来に向かって

教授 田中 恵二

卒業おめでとう。

皆さんは、それぞれの希望を胸に、ちりぢりに巣立っていくのですね、若い皆さんには、無限に広がる未来があります。その未来において、幸せをつかめるかどうかは、皆さん一人一人の生き方にかかっているのです。希望に向かって精一杯生きていってください。

では、さようなら。

青木麻美 浅田郁美 荒川美晴
安藤 絢 板橋なつき 伊東明子
稲田祐子 岩崎友典 上野裕子
宇賀神ますみ 浦山いちこ
江連佑磨 遠藤まい 大島 健
大島嘉子 小口貴穂 片柳裕子
川村麻利恵 菊池紗由里
菊池芳子 北川愛子 北原亜紗未
木村菜美 桑原祥子 小林洋平
佐藤美緒 下館 舞 下村真美
白井絢子 白石由香 鈴木麻里江
鈴木祐可理 瀬尾悦未 高橋和美

国文学科 二組

心豊かな人生を

教授 南 芳公

「卒業おめでとう。いよいよ大いなる人生への門出の時ですね。前途遥かなる旅路、思い思いのコースでも、辿り着くゴールはみな同じ。ゆっくり歩んでいきましょう。回り道もいいものです。

ほのぼのとあかしの浦の朝霧に鳥隠れゆく舟をしぞ思ふ（古今集・巻第九・羈旅歌）時には古典を繙いてみて下さい。どうぞ心豊かな人生をお過ごし下さい。お元気で。

高橋香名 武田紗希 武田鉄平
田崎友里恵 塚田智江子 鶴岡佳恵
中澤郁弥 中島未来 中野 麻
中林千紘 中原 宏 長嶺憲佑
仲山弥里 名取祐美 蜷川陽子
根本蓉子 橋本依恵 半田佳世
久行綾乃 古井歩実 古沢光子
星野 愛 星野綾香 星野紗世
堀江善子 米田迪子 馬目美恵
丸本歩美 溝口大介 村澤友美
村瀬彩子 森田美希 山口かな
山田美香 渡辺奈瑠美 中嶋 峻

家政学科 一組

健やかに賢く

家政学科長 教授 北村 奉正

卒業おめでとう。ダイエツ

トは食事療法などを意味し、摂取・消費エネルギーを考慮した食事制限をして「体脂肪を調節」することだと学習しましたね。しかし、一般には「減量」と誤解され、色々な問題が生じています。美容や健康に関する誘いは、科学的根拠に基づいた知識で判断しましょう。家政学科での学習内容は実践的で日々の生活に役立ちます。授業を思い出し、健やかに賢く生きましょう。

池本恵利花 石原万里江 白井香織
白井真祐美 江川 薫 江口博子
大島雅代 大竹麻里 大森望美
岡田悠加 小川加奈江 奥津千明
小椋直美 落合加奈 小野朋未
小野瀬祐紀 柏倉枝里 金久保美幸
金山 愛 川又志保 菊池ふみ
菊地美穂 木澤麻衣 木村真美
黒木瑠子 郡司 恵 毛部川瞳
小林奈緒美 駒場理美 紺野 舞
齋藤恵里 佐伯真裕子 酒井千純
佐藤恵里子 佐藤愛美 佐藤麻耶
鈴木翔子 鈴木千恵子 鈴木友恵
須見幸乃

家政学科 二組

思い出を大切に

教授 山内 見和

「卒業おめでとうございま

す。

初めて皆さんと入学式で会ってから、二年間が経ちました。楽しいこと、苦しかったこと、辛かったこと、いろいろな経験を積み、皆さんとても美しく、たくましくなってきたと思います。

これから短大時代の経験や友人を大切に、健康に気をつけてがんばってください。

皆さんの今後の活躍をお祈りします。

関みなみ 関口綾香 臺 千悠
高岸久美 高橋麻衣 高橋美翔利
高橋 優 武田香織 田島いづみ
立川由子 田中美穂 谷 歩美
田村 惟 塚原沙紀 豊田恵里
中澤裕貴 長浜季里子 中山香里
沼尾佳奈 濱田祥子 日向野好美
広野真梨菜 深谷美咲 福田愛実
福富裕理子 藤本佳代 前原綾香
益子宣恵 松尾加奈恵 松本真佑
水越加奈 水澤佳代 峯岸由佳
山本昭子 山本実穂 横井靖奈
横澤愛弓 横山泰子 吉井明美
菅原有紀

初等教育学科 一組

卒業おめでとう

教授 鷲崎 直子

青空に、梢を伸ばした、辛

夷が、満艦飾に純白の花をつ

け春の訪れを祝祭していま

す。力強く、美しい花に、皆

さん一人一人が重なります。

駆け足で過ぎるチャンスの神

様は後髪がないと云われてい

ます。滞ることなく、真直ぐ

に、視線をこらして、新しい

世界に踏み出してください。

健やかに、逞しく、美しく

青木理恵 赤羽愛実 淺野友美
阿部恵里菜 石毛亮多 石原明香
井田倉あすみ 出井舞美
猪熊さゆり 今井なぎさ
上野あゆみ 上野歩美 宇賀那まい
牛久 彩 江連敦子 遠藤 桜
大内咲絵 大川真里 大澤夕梨恵
大島かほる 大塚智実 大橋麻美
大谷香織 岡川直恵 小澤英恵

初等教育学科 二組

歩き出す

助教授 渡辺 千歳

名簿の順で仲間となった級友との学生生活はもう終り。新しい日々が始まります。定期演奏会で歌った「時代」の

ように、生きることは別れと出会いのくり返しなのでしょ
う。いつの日か、思い出のアル
バムをめくる時、きらきら
とはじけていた青春の断片を
そっと胸に抱きよせて、笑顔
と元気をとり戻して下さい。

尾島佐知子 小田瑞絵 小野麻美
加藤悦子 神戸健介 橋内智美
久野加奈美 栗原多恵 黒岩沙織
小池達也 小泉由貴 幸田絵里
小林恵利香 駒場亜由実
酒井良恵 坂本恭子 笹原絵理子
佐藤勝章 佐藤聖也 佐藤夏美
佐藤宏美 佐藤真衣 志賀亮洋
柴 絵美

初等教育学科三組

しなやかな強さを
助教授 杉浦 左 知

早春の山中をスケッチして
いると、ピシッピシッと鋭い
音がします。深い雪を撥ねて
小枝が立ち上がる音です。細
い枝先も、米粒大の蕾も、目
に沁みる華やかな赤です。
皆さんの今後のご活躍を祈
る時、この山中の場面が甦り
ます。皆さんの新境地の快晴
も吹雪も、どうぞ心身ともに
健康で乗り切ってください。

渋谷七重 島田 優 清水 薫
下田真美 下野 綾 須藤充美
相馬路子 高橋亜弓 竹澤智美
田中千明 田部田真純 丹治美由紀
知久由香里 長 悠喜 土屋友里
津布久美希 藤間亮太 中里友紀
西尾沙耶香 鉢村美恵子
馬場しおり

初等教育学科四組

自らの人生を切り開け
教授 大西 秀彦

植物の種子が土の中から発
芽するとき、自らが持つ生命
力で土を押し上げます。大空
には、いつも太陽が輝いてい
るとは限りません。濃霧で先
が見えないときには、自らが
意欲的に未来を切り開く力が
必要です。
あなた方の未来に幸多から
んことを祈ります。

林 清恵 原麻裕美 伴 友美
平等奈弓 福島永子 福永信代
松井綾子 松橋有美 松本 潤
松本仁美 真中賢一 三瓶紗知子
水野要紀 宗像麻菜 森 文乃
柳沼美咲 谷田員康一
山崎 瞳 横塚恭一 渡辺春奈
斎藤由佳

日本史学科一組

正しく、直く

教授 鍛代 敏雄

日本文化史の授業で「正直」
論を話しました。古代では「せ
いちょく」と読むそうですが、
『今昔物語集』にも十二カ
所、主に人の「徳」が物語ら
れています。数年前の新聞報
道によれば、子が親から「嘘
をついてはいけません」とい
われた比率が二〇数%。悲し
いかな、日本は米国や韓国の
四分の程度。ほんとうは正
直に、誠実に生きることが、
いちばん大切ですね。
おめでと、しっかりと。

赤羽宏紀 秋元佐智 阿部光伸
天田裕美 飯島幸恵 石川洋恵
石崎可奈 石崎裕子 石田友紀
伊藤徳史 井上理美 臼井詩乃
大内修平 大野佑馬 岡田久美子
岡本愛美 海発友梨 柏木秀司
加藤桃子 金川風人 狩野里美
神倉里早 川田晃彰 川邊健介
菅野賢司 菊地佳明 岸山絵美
草間里紗 桑子智恵子
小池由布子 國分利也 後藤幸恵
小林悦子 小林圭太 小林咲絵
小林美穂 小松麻美 齊藤真梨子
斎藤由香里

日本史学科二組

二年間を大切に

助教授 小林 青樹

このたびは、ご卒業おめで
とございます。卒業するみ
なさんは、二年間に何をする
ことができたでしょうか。卒
業は、人生の一つの区切りで
あり、これまでの自分から新
しい自分になる機会でもあ
ります。しかし、新たな環境
に身を置く前に、短大時代の
少し前の自分を振り返って
みてください。二年間が決して
無駄ではなかったことに気づ
くはずです。これが新しい自
分の歴史の糧となるでしょ
う。健闘を祈ります。

櫻井春香 櫻田郁香 佐々木謙一
佐藤恵美 佐藤里奈子 佐野貴悠
塩井千裕 清水龍哉 鈴木純男
関川真奈美 瀬谷もゆ 相馬香織
高野夏季 高橋智彰 高山春香
種市朋子 塚越信寛 塚本侑子
出牛克弥 時野谷由香 長崎匡彦
中野弘之 濱田章博 比戸美由紀
平野和人 福島美幸 古川英功
星 泰隆 堀越達弘 増田悠里
町田絵美 丸山尚幸 村越 光
矢野里佳 湯澤有希 吉田早矢香
吉田真理子 渡部温子 渡邊亜祐香

商 学 科 一 組

未来を拓く力を

教授 中塩 聖司

卒業おめでと。いま一人
一人の顔が浮かんできます。
皆さんとは、授業以外にも各
種の行事、軽井沢の合宿など
で多岐にわたる話をしてくま
した。社会のこと、就職や将
来の進路について、また人間
関係の悩みなど皆よく私を信
頼して語ってくれました。そ
れぞれの成長を見つめてきた
者として今後の実社会での成
功を願わずにはいません。
いつまでもお元気で、そして
母校を忘れないでください。

浅野雅章 天沼 彩 飯塚亮子
池澤由佳 大関靖子 太田 葵
鹿沼みずほ 菊地奈緒美
木村由貴 桑奈央子 小池水無
坂本純野 佐藤 昇 佐藤友理
篠崎仁美 島森美和 須藤雅代
関 洋平 高野 文 高橋美貴
坪井栄樹 常盤瑞人 戸田友見子
富澤公詞 中島真樹 夏井信幸
日野優花 平石晴果 船津亜沙子
星野奈津美 松本綾香
宮内麻里恵 村田美幸 森田菜美

太平台での二年間：感謝とお別れのこゝろ

財 産

国文学科 北原 亜紗未

図書館司書の資格取得を目標に本学に入學し、あっという間に二年間が過ぎました。忙しい毎日でしたが、とても充実した短大生活を送ることができました。



秋季研修旅行

栃木に来たばかりの頃は、新しい生活や気候の違いに戸惑うことも多々ありました。しかし、豊かな自然に恵まれた環境の中で講義を受けるうちに、学びたいという意欲や興味が増してきて、同時に栃木の街も好きになりました。

図書館学をはじめ、文学や日本語学、そして短大に入ってから初めて触れた民俗学。日本人として必要な知識をたくさん得られた気がします。

この二年間は、私にとって大きな財産となりました。その財産を胸に、これから社会人として生きていきたいと思っています。

最後になりますが、親身になつてご指導くださいました先生方、支えてくれた学科や寮の友人たちには深く感謝しています。本当にありがとうございました。

学びと経験を生かして

家政学科 江川 薫

養護教諭を目指し本学に入學してから、早二年が経ちました。振り返れば、毎日が忙しく感じましたが、充実した有意義な二年間を過ごせたように思います。

養護の分野に限らず、調理や被服、生活経営などの幅広い分野での講義と実験実習では、様々な知識や技術を身に



入学式

つけることができました。また、教育実習や臨床実習は、短期間ではありましたが、学内では体験することのできない様々な場面に立ち会うことができました。本当に貴重な経験となりました。この二年間での学びや経験は、きっと自分の力となつていくことと思います。これから出ていく社会や家庭の中で、少しでも多くのことに生かしていきたいと思っています。最後になりましたが、今まで親身にご指導くださいました教職員の皆様、支えとなつてくれた友人達、家族に心から感謝し、御礼申し上げます。

先生

初等教育学科 相馬 路子

本学に入學して『先生』という歌に出会いました。初めて聴いたのは入學直後の初等教育学科新入生歓迎会です。

この曲の歌詞を聴いた時私の心に強く響いたのを覚えています。子どもが好きで先生になることを決めた私ですが、好きなだけでは先生になれないことを実感し、二年間を通して先生になるために必要なことを学びました。また、幼稚園や小学校へ観察・実習に行つて直接子どもたちに触れ、



斯花祭

最初は戸惑うこともありましたが、しかし、小学校の様子を自分の目で見ることで、現場の厳しさや教育の魅力を感じることができました。学校に戻ってから分かつたり学ぶことも多かつたように思います。

短大は卒業ですが、先生になるため、ここからが本当のスタートだと思います。

信じた道を進むのはつらいことでも仲間と夢を信じなければ先生にはなれない。

二年間すばらしい環境で、たくさんさんの貴重な経験ができたことを感謝いたします。

日本史で学んで

日本史学科 金川 風人

國學院大學への編入を志し、本学に入學してあっという間に二年間が過ぎていきました。栃木県という故郷の八丈島とは全く異なつた環境での生活は慣れるまで大変でした。

しかし、本学での歴史学の講義は高校での歴史の授業とは違い、私にとって新鮮なも

第40期生のあゆみ

平成17年度 (1年次)

4.11	第40回入学式 (380名)
4.12~16	オリエンテーション・健康診断
4.12	学長講演
4.15~16	商学科合宿研修
4.25	履修届提出
4.27	日光親睦旅行
5.18	体育祭
5.28	初等教育学科講演会
6.4	歌舞伎鑑賞教室
6.27	初等教育学科幼稚園・小学校視察
6.28~7.2	初等教育学科唐沢青年の家宿泊研修
7.11~20	集中講義・補習講義
7.11	国文学科文学散歩
7.12	日本史学科史跡調査
7.12	初等教育学科講演会
7.14	日本史学科栃木県立博物館実務見学
7.21~9.4	夏季休暇
7.21~24	日本史学科白石家古文書調査
8.3~12	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(長岡市)
8.28~9.4	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(栃木市)
9.2~3	国文学科コース別課外研修
9.12~28	前期試験
9.28	キャリアカウンセラーによる就職支援講座
10.8	学園創立45周年記念式典
10.9	学園創立記念日
10.12~13	秋季研修旅行
10.26	国文学科講演会
11.6	国文学科文学散歩
11.19~20	第39回花祭
12.9	日本史学科講演会
12.12~21	集中講義・補習講義
12.12	栃木県学内就職ガイダンス
12.22~1.9	冬季休暇
2.1	家政学科講演会
2.4	第28回合唱団定期演奏会
2.6~18	後期試験
2.20	進路ガイダンス
2.21~22	家政学科普通救命講習会
2.21	商学科工場見学
2.22	日本史学科卒業論文発表会・史学会総会
3.18	第39回卒業式

平成18年度 (2年次)

4.10	第41回入学式・成績表交付
4.11~15	オリエンテーション・健康診断
4.11	学長講演
4.24	履修届提出
5.17	体育祭
6.5~7.1	国文・家政・日本史学科教育実習
(~6.24)	養護のみ
6.19~23	初等教育学科教育の観察と参加
6.28	家政学科先輩合格者の体験伝授
7.8	家政学科住宅展示場見学
7.10~20	集中講義・補習講義
7.12	家政学科フード系見学会
7.12	日本史学科博物館見学
7.15	初等教育学科講演会
7.18~20	日本史学科古文書調査実習
7.21~9.3	夏季休暇
8.1~10	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(長岡市)
8.24~9.1	日本史学科考古学実習遺跡発掘調査(栃木市)
9.11~27	前期試験
10.2~27	初等教育学科教育実習
10.7	学園創立46周年記念式典
10.9	学園創立記念日
10.14	家政学科医療管理秘書士能力認定試験
11.1	国文学科講演会
11.1	家政学科先輩合格者の体験伝授
11.11	秘書技能検定試験
11.18~19	第40回花祭
12.4~8	国文学科・日本史学科卒業研究提出
12.11~20	集中講義・補習講義
12.15	初等教育学科教育実習報告会
12.17	家政学科フードスペシャリスト認定試験
12.21~1.8	冬季休暇
1.12	初等教育学科卒業研究・制作提出
1.13	家政学科臨床実習発表会
1.13	家政学科医療管理秘書士能力認定試験
1.16~1.31	後期試験
1.31	日本史学科講演会
2.4	第29回合唱団定期演奏会
2.10	秘書技能検定試験
2.15	卒業確定者発表
2.15~16	初等教育学科筑波大附属小参観
2.23	日本史学科卒業研究発表会
3.17	卒業式予行
3.18	第40回卒業式 (353名)

のでした。発掘調査や古文書調査など、様々な貴重な体験をすることが出来ました。また、講義・部活動を通じて様々な人と出会い、私自身人間的にも高校生の時より成長したと思います。

来年度からは、渋谷の國學院大学生として本学で学んだ歴史学の知識を生かし、残り二年間勉学に励みたいと思います。

最後になりますが、講義以外でも親身にご指導くださいました先生方、二年間私を支えてくれた友人達に心より感謝し、御礼の言葉と代えさせていただきます。



日光親睦旅行

価値

商学科 飯塚 亮子

私はこの二年間本学で諸先生方をはじめとする多くの人と接したことで自分の価値観を変えることができたように思います。商学科の授業はとも身近で社会に直結する内容が多いので、現在起こっている様々な現象について知ることができてとても新鮮でした。特にゼミ論文という大きな課題に半年間取り組んだこ

とによって一つの問題について深く考え、自分の意見を論理的に述べることの大切さを実感しました。

また、本学ならではの日光親睦旅行や夜遅くまで友人と語り合った秋季研修旅行は特に印象に残っています。これから本学で培った知識や友人関係を糧として頑張りたいと思います。

最後に、授業以外でも丁寧な先生方や教務部の先生方、大切な友人、そしてどんなと

きも支えてくれた家族に、心から感謝申し上げます。



体育祭

退任の弁

「卒業」にあたって

教授 英語 山崎 順子

二年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

Congratulations
on your graduation!

四月からは、國學院大學栃木短期大学で学び、吸収した学問、教養を基礎に、更に各々の進学、実社会の場で、活躍なさることを期待しております。

私も、皆さん同様、この三月に「健康上の理由で」卒業することになりました。昭和五十七年に本学に専任として



職に就いて以来今日まで二十数年間、皆さんの先輩の方々も含めて延べ数千人の学生の方々と、本当に楽しく授業を持つことが出来ました。初めの頃の大勢の熱気を帯びたクラス

の優秀さと、二十数年間のLL教室の各人の画面を見るときにキラキラした学習意欲に燃える目、斯花祭での各々の分野で発揮されるエネルギーと、廊下等で挨拶を欠かさない礼儀正しさには敬服しております。

岡野学長先生をはじめとする教員の先生方、木村理事長先生はじめ事務職員の方々にも大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

私も卒業生同様、伝統ある國學院大學の栃木短期大学から沢山学ばせて頂いたことを誇りとして、健康を取り戻しつつ研究生活を続けて参りたいと思います。またのお会いする日を楽しみに致しております。本学のますますの御発展と皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

積み重ねを大切に

教授 博物館学 菅根 幸裕



十二年間お世話になりました。私は本学に来るまで長く

県立博物館の学芸員であり、博物館の仕事が大好きでしたが、三十歳代も後半になり、学芸員としてはキレが無くなったので、博物館の素晴らしい館の素晴らしい仕事を教える仕事をしようと思ひました。

た。教壇の経験もなく、最初の講義では足が震えたのを覚えて

います。そんな私が今日までいられたのも、先生方をはじめ本学の皆様のおかげと感謝しております。特に、本学の学生は真面目かつ素直で、こうした素晴らしい学生達に恵まれたことが教員として一番幸せであつたと思います。それから十年余、私も四十代後半になり、今度は教員としてのキレもなくなってきたようなので、余生は、自宅近くの大学に行こうと考えた次第です。さて、日本史という学問は地道な努力の積み重ねが基本です。パソコン時代の学生は

面倒に感じるでしょうが、実はこれはとても大切なことなのです。最後はこうした努力の積み重ねが確実な成果を導くのです。現在、自治体史の編纂がほぼ終了したため、古文書解読の需要は少なく、また、博物館法の改正により、短大の学芸員課程の存続は不透明であるなど、状況は厳しいものがありますが、國學院の積み重ねを重視する堅実な学問を受け継ぐ日本史学科が、

永続することを望みます。ありがとございました。(四月からは非常勤として講義を担当される)

國學院大學編入学試験結果

◇推薦編入学合格者

文学部日本文学科フレックスB	国文学科	15名
文学部中国文学科	国文学科	2名
文学部史学科フレックスB	日本史学科	8名
経済学部経済学科	商学科	4名
経済学部経営学科	商学科	2名

◇有試験編入学合格者

文学部日本文学科フレックスB	国文学科	2名
文学部中国文学科	国文学科	1名
文学部日本文学科フレックスA	卒業生	1名
文学部史学科フレックスB	日本史学科	11名
文学部史学科フレックスA	日本史学科	6名

◇一般編入学試験合格者

文学部日本文学科フレックスB	国文学科	1名
文学部史学科フレックスB	日本史学科	1名
文学部外国語文化学科	日本史学科	1名
経済学部経済学科	商学科	2名
経済学部経営学科	商学科	1名

他大学編入学試験合格者

大阪教育大学教育学部	初等教育学科	2名
和洋女子大学日本文学科	国文学科	1名
文教大学日本語日本文学科	国文学科	1名
文教大学中国語中国文学科	国文学科	1名
武蔵野大学日本語日本文学科	国文学科	1名
杏林大学外国語学部	国文学科	1名
杏林大学保健学部保健学科	家政学科	2名
鎌倉女子大学家政保健学科	家政学科	1名
玉川大学教育学部	初等教育学科	1名
十文字学園女子大学児童幼児学科	初等教育学科	1名
東京家政大学児童学科	初等教育学科	1名
大正大学歴史文化学科	日本史学科	5名
駒澤大学歴史学科	日本史学科	1名
東北学院大学歴史学科	日本史学科	2名

(平成19年2月28日現在)



左から正木、室井、河内の
パネリストの皆さん

初教このはな会とは、県内外で教員として活躍する初等教育学科卒業生と教員志望の学生たちをつなぐ交流の場となること、同時に卒業生同士が情報交換をする場となることを目的として前初等教育学科長大久保康彦名誉教授の御尽力により発足した会である。

十周年の今年は総会の後、第一部として教

平成十八年十一月二十五日午後、完成間もない國學院大學栃木学園教育センターにて、発会十周年を迎える初等教育学科の卒業生・在校生と教職員による組織『初教このはな会』の記念総会と記念行事が開催された。

初教このはな会十周年

記念総会と記念行事

第二部はオペラ歌手として活躍の本学教授小川裕二先生による記念演奏会が催された。雄大にして繊細なバリトンの独唱は日常の喧騒を忘れさせてくれる夢のようなひと時で、美しい音楽、芸術が私

育現場における『ズレの意識』の克服をどう進めるか」と題してシンポジウムが開かれた。山口令司初等教育学科長の進行のもと、小学校教員の立場から壬生北小学校教頭の室井妙子先生（第八期卒業）、母親代表として河内弥生子さん（第十二期卒業）、本学教授の正木孝昌先生という三名のパネリストによって、今日の教育現場の問題点について本音の意見が活発に交わされた。参加者は、誰もが子ども達が置かれている現状をこのままにしておいてはいけなさと感じ、自分も考えずには



デッキブラシを使った創作

沸いた。これからも、卒業生と在校生のために実り多い活動を提供して行ければと思う。



小川教授による記念演奏

教育実習報告会

十二月十五日、教育実習報告会が開かれた。研究授業や責任実習などのエピソードもまじえて二年生六名が発表し、先輩からの貴重な体験と今から準備しておくべきことや心構えが一年生に伝授された。

音楽発表会

十二月二十日、四十周年記念館と第一音楽室を会場に音楽発表会が開かれた。一年生はことばや身体や身近な素材を使った創作を、二年生はモノドラマ合唱音楽劇「白いぼうし」と「ごんぎつね」を発表した。

表現活動交流会

二月二十二日、岩舟町立小野寺南小学校表現活動交流会に昨年七月に続いて初等教育学科一・二年生有志五十二名が参加した。児童と学生が合同でモノドラマ合唱音楽劇「ごんぎつね」や、様々な音楽活動に取り組み、最後に発表会を行った。

筑波大学附属小学校参観

二月十五・十六日の両日、社団法人「初等教育研究会」による「学習公開・初等教育研修会」が筑波大学附属小学



ちにとつて
貴重な体験
ができた二
日間であつ
た。

校（東京都文京区）を会場にして開催された。初等教育学科から小学校教育に関心の高い学生十九名が参加した。この研修会では、各教科や道徳、総合活動、英語活動、それに学校保健活動などの授業が公開された。その授業を基に徹底した討議がなされ、指導者の授業に取り組む意図やねらいが話し合われた。また、全国の優れた研究者や実践家による発表と討議も行われた。どの会場も教育現場の厳しさと熱さが漂っていた。授業会場に入るのも開始一時間前に入らないと参観できないほどの盛況であった。参加する学生も真剣で、朝早く受付を済ませ希望する授業会場に人をかきわけて入り、熱心に参観する姿が見られた。

ここ数年、小学校教員の採用状況は厳しいが、教育現場で子どもたちと向き合うその

第29回 人形劇部定期公演 ヘンゼルとグレーテル



人形劇部「プツペツペ」の第二十九回定期公演が十二月二十二日午後、栃木市文化会館小ホールで行われた。昨年からの顧問となった栗原和子講師の指導のもと、部員たちは来場者の心に残るような舞台にしたいと、少ない部員ながらも、試行錯誤しながら公演の準備をすすめこの日を迎えた。

公演には、昨年につづき本学園二杉幼稚園の年長組園児たちによる歌の披露が始まり、学生による手遊び・エプロンシアター等の披露。つづいてグリム童話『ヘンゼルとグレーテル』の公演。心温まる公演に客席から盛んな拍手が送られた。

舞台演奏を通して味わう 喜びと感動

第29回 合唱団定期演奏会

しの我が家ケンタッキーの家「草競馬」、金髪のジェニー「夢路より」の四曲を演奏。続いて混声合唱と器楽演奏。

より、懐かしいの我がケンタッキーの家「草競馬」、金髪

奏で、一年生九十名、室内楽研究会による「涙そうそう」、二年生一〇〇名、室内楽研究会による「怪獣のパラード」。「時代」を演奏した。



あつた器楽アンサンブルの三曲を披露。つづいて小川裕二教授によるバリトン独唱は、「ベトラルカの詩による三つのソネット」より「平和を見出せず」が小川沙織講師のピアノ伴奏で披露された。

第三部は、コーラス部による演奏で、木下牧子アカペラ・コーラス・セレクション「女声合唱のためのより六曲を、女声合唱曲集「ほほえみ」から五曲を披露し、美しいハーモニーに会場から惜しみない拍手が送られ、多彩で充実した内容の演奏会であった。教職を志す学生たちが舞台演奏を経験し、音楽を通して多くの喜びと感動を味わったことは、将来いろいろな場面で役立つことであろう。

室内楽研究会

東関東大会 8年連続出場



「混合八重奏」



「金管八重奏」

十二月二十六日、栃木県アンサンブルコンテストが栃木県総合文化センターで行われ、室内楽研究会から三グループが大学の部に出場し、打楽器四重奏が金賞、混合八重奏が銀賞、金管八重奏が銅賞をそれぞれ受賞した。そして今年も打楽器四重奏が栃木県代表として推薦され、東関東大会に出場した。東関東大会は一月二十七日、栃木県総合文化センターで行われ、打楽器四重奏は銀賞を受賞した。



「打楽器四重奏」
写真：(株)フォトライフ

曲は打楽器四重奏「マリリンバ・スピリチュアル」、混合八重奏「五本のフルートの為の六つの協奏曲」、金管八重奏「テレシコーレ舞曲集」より。これらの演奏曲は定期演奏会でも披露された。

室内楽研究会部長の小池達也君（初等教育学科二年）は、「二年間練習してきたことを全て出し切り、楽しく思い切った演奏をすることができました。これまで熱心にご指導を下さった早川富美子先生には感謝の気持ちで一杯です」と語った。

家政学科教員採用対策講座開講

家政学科では、進路支援の充実を目指して教員採用試験対策講座が年間を通して放課後に実施された。これは都道府県で行われている教員採用試験の合格率を上げるために一昨年から始められた企画で、家政学科の教員が「一般教養」「教職教養」「家庭科」「養護」「小論文」「面接」等試験問題の傾向と対策を講義し、模擬試験を実施した。また、家政学科卒業生で教員採用試験に合格された片岡由樹さん（平成六年度卒・佐野市立吾妻小学校家庭科教諭）、立沢美紗子さん（平成十六年度卒・館林市立第九小学校養護教諭）を講師として体験伝授もあり、五十余名の学生はメモを取りながら真剣に聞き入っていた。

教員採用試験に向けて

片岡 由樹

私が採用試験を受けたのは、十三年前です。採用試験に向けて何冊かの問題集を購入し、繰り返し解きました。どこまで勉強すれば合格できるのかとももちろん不安でいっぱいでした。焦っても仕方がないですから、やれることをやれる範囲で落ち着いて取り組むようにしました。家庭科の実技

同じ夢を持つ人たちへ

立沢 美紗子

短大を卒業して、もう少して二年が経とうとしています。現在は、勤務校で子ども達と一緒に学び、楽しい日々を過ごしています。

この採用試験対策講座のお



試験では、それまでの積み重ねが物を言います。短大での実技実習の時間を大切にしてください。私は、正確に短時間できれいに仕上げることを心がけるようにしました。

これからの試験は、これまでに以上に面接が重視されると聞いています。短大の先生方や友人はもちろん、多くの人

話を聞いた時「私のもう一つの夢が叶った」と思いました。なぜなら私は「養護教諭になること」そして、「採用試験対策講座で、同じ夢を持つ人たちに夢を叶えるお手伝いをすること」の二つのことを目標にしていたからです。

四年前、私は短大に入学し、すぐに、勉強を始めようと思っていました。しかし、どのように勉強したら良いのかわからず、不安な日々を過ごしていました。しかし、この対策講座に参加してからは、

と接する機会を積極的に持つようにしてください。全てが自分の財産になります。

最後のアドバイスは、明るく前向きに生活することです。家庭科教諭も養護教諭も仕事の内容は幅広く、決して甘くありません。しかし、それ以上で得る物があり、日々充実しています。子どもたちに囲まれ、輝いている自分をイメージするとがんばろうという気持ちになります。今は苦しくつらい時期ですが、健康に留意して頑張ってください。応援しています。

先輩の方法を真似て勉強を始めました。その後は、迷いが消え、勉強も自分の方法で始めることができました。また、先輩の話の中で、勉強中は孤独で辛く大変だったと聞き、辛いのは自分だけではないのだと励まされました。

最後に、私の試験対策がみなさんのお役に立てればと願っています。「養護教諭になる、なれる」という素敵な夢の実現に向けて頑張ってください。

普通救命講習会

二月二十六・二十七日の両日、家政学科一年生養護教諭課程履修者六十二名を対象に、普通救命講習が行われた。例年の心肺蘇生法・異物除去法・止血法の実技と講義の他に、昨年度からAED（自動体外式除細動器）を使って心肺蘇生法が講習された。

受講生は、人命を助けることの大切さを改めて実感し、講習後、全員が「救命講習修了書」を取得した。



AEDを使用して心肺蘇生法を学ぶ学生

日本史学科活動報告

考古学フィールドワーク

十二月八・九日の二日間、夏季に発掘調査をおこなった圓通寺古墳出土の埴輪資料の整理（拓本と実測）と測量した図面の整理をおこなった。発掘に参加した本講座の受講生のほか、國學院大學学生、そして本学一年生も加わり作業にあたった。昨年度に出土した埴輪には、人物埴輪などが含まれ、関心の高い学生の作業にも熱が入っていた。

古文書調査実習

十二月十一日・十三日の三日間、大平町歴史民俗資料館の協力を得て、一年生の日本史コースの調査実習として、「白石家文書」の史料整理と目録作成を実施した。指導教員は田中正弘学科長・鍛代敏雄教授・菅根幸裕教授・深井雅海教授の四名。一年生三十九名と二年生一名が参加した。

一年生の林友理恵さんは、「手紙を中心に読みましたが、書体を読みとることが難しく、先生方に質問しながら理解を深めました」、二年生の菅野賢司君は、「すらすら読める

には何年かかかるかわかりませんが、就職しても根気よく続けていこうと思います」と、それぞれ感想を語ってくれた。



質問しながら読み解く

史学会総会・卒業研究発表会

二月二十三日、日本史学科の、國學院大學栃木短期大学史学会総会ならびに卒業研究発表会が開催された。卒業研究の発表者は次の通り。

渡邉亜祐香（古代史）

古代の服飾

川田 晃彰（中世史）

上州武士団小林党の研究

村越 光（近世史）

十三代將軍家定の婚姻儀礼について

菅野 賢司（近代史）

日本陸軍の研究

金川 風人（考古学）

八丈島における戦争遺跡について

狩野 里美（東洋史）

前秦苻堅についての研究

福島 美幸（歴史民俗学）

衆道をめぐる歴史と民俗

“円仁が見た
唐の風景”を語る

教授 酒 寄 雅 志

去る二月十

六日、宇都宮市栃木県総合文化センターで、「円仁と親しむタペー中国古典楽器演奏と講演」が開催された。四月二十一日から始まる栃木県立博物館の特別

企画展「慈覚大師円仁とその名宝」展のプレ企画である。開演の午後六時には、定員四〇〇名のサブホールは満員。

一月前には予約受け付けを断るほどの盛況であった。栃木県が生んだ歴史上著名な人物である円仁に対する関心の強さを物語っている。

私は遣唐使の一員として八三八年に唐に渡った円仁の揚州・赤山法華院・五台山・長安など、九年半にわたる求法

の旅を、本人の書いた『入唐求法巡礼行記』を素材に、二〇〇三年以来、文科省の補助金で行っている。円仁の足跡を訪ねる調査」で得た見聞を随所に織り交ぜて語った。持ち時間の五〇分を越えてしまったが、仏法を求める円仁の一途な姿を少しは感じ取っていた。

けたのではないかと自負している。その後、会場は胡弓の音色に酔いしれた。

商学科日産自動車栃木工場見学

二月二十一日

商学科一年生が

日産自動車栃木工場

木工場見学（栃木県河内郡上三川町）を実施した。出発前に学内で、V字型回復の背景や日産車が完成するまでの説明と見学マナーについて研修を行なった。

十三時五分、関東地方で最大規模の高級車（フーガ、フェアレディZなど）生産工場内を約二時間コースで自動車完成までの製造工程（プレス↓車体組立↓塗装↓最終組立↑オフライン↑ファイナルテスト↑出荷）を見学した。

大規模の高級車（フーガ、フェアレディZなど）生産工場内を約二時間コースで自動車完成までの製造工程（プレス↓車体組立↓塗装↓最終組立↑オフライン↑ファイナルテスト↑出荷）を見学した。



展示中の日産車を見学する学生

特に、「宝船」や最も自動化が進み高精度が要求される車体組立への自動溶接ロボットを導入など、作業効率化が素晴らしいかった。

最後に、ゲストホールで同社のモノづくりの指針「日産生産方式（NPW）」のビデオが上映された。学生から「環境や資源への配慮」に対する質問に、館長から「人とクルマと自然の共生」をモットーとした顧客基盤の「同期生産方式」品質・納期・コストの同期の実現」に取り組んでいると説明を受けた。働く社員の姿を目の当たりにして帰校した。

平成十九年一月三十一日に日本史学科講演会が開催されました。今回の講師は早乙女雅博先生（東京大学大学院助教授）です。現在は、東京大学韓国朝鮮文化研究室に所属されています。先生のご専門は、韓国・朝鮮考古学です。今回の講演の内容は、「世界遺産高句麗壁画古墳と法隆寺・高松塚」です。以下に、講演の内容について概略を紹介いたします。

*

高句麗は、今の韓国ソウルあたりから、北朝鮮、さらに中国東北地方の南あたりまでの広い範囲を支配していた国です。壁画古墳は、四世紀か



これまでの研究に触れながら話す早乙女先生

ら七世紀頃までつくられ、ピョンヤンに多数集中し、総数は百四基知られているそうです。先生は、壁画古墳の墓室、壁画の描かれる場所と画題の変遷について解説され、実際に訪れた主要な壁画古墳について、スライドを使って紹介されました。

スライドでは

高句麗壁画古墳の主要な例として、安岳三号墳、徳興里古墳、双楯塚古墳、江西大墓の五基について解説されました。いずれも

平成18年度日本史学科講演会

世界遺産高句麗壁画古墳 と法隆寺・高松塚

早乙女 雅 博 先生（東京大学大学院助教授）

変遷について、当初は、墓の主人公や風俗、日常生活であったもの（安岳三号墳）が、次に一年の行事や儀式の光景（徳興里古墳）になり、その後四神、神仙、風水（双楯塚古墳）などに変わりました。

最後の段階には、人物はいつさい描かれな（江西大墓）のが特徴であると整理されました。

*

次に先生は、高句麗壁画古墳と日本の高松塚古墳の関係について触れられました。高松塚古墳は、七世紀後半の円墳で、小型で非常に狭い石室内に、四神や、

容易に見学できない古墳ばかりです。こうした例をもとに、高句麗壁画古墳の

特徴は唐の時代の壁画の顔によく似ており、様々な要素が入り混じっているようです。すなわち、服装は高句麗的ですが、顔の特徴は中国に似ており、また全体の構図などは中国的であるわけです。こうした特徴のありかたから、高松塚古墳の壁画への高句麗の影響は、それほど大きいわけではないことがわかります。

このようにみると、日本と高句麗との関係はそれほど強いようには思われませんが、実は法隆寺にその影響が強く見られるというのが先生の考えです。高句麗の江西中墓の壁画に描かれている蓮華文様と似たものが、法隆寺にもあり、飛鳥文化のなかに高句麗的な要素が取り入れられているのです。これまでの研究では、飛鳥時代の文化は、百済の影響が強いと考えられていますが、法隆寺のあり方をみると、高句麗の影響も強く受けていたことがわかります。

*

最後のまとめとして、高句麗と日本の関係について、二つの画期を示されました。ま

ず第一の画期は、六世紀末から七世紀初めにあり、飛鳥寺や法隆寺、聖徳太子や推古天皇の時代にあたり、飛鳥寺の伽藍配置に高句麗系のもものが取り入れられます。第二の画期は、七世紀後半、高松塚古墳やキトラ古墳の時代です。朝鮮半島では、新羅が強大となり、百済・高句麗が滅び、日本に多数の亡命者が渡来人となって日本にやって来ます。これにより、高句麗をはじめとする朝鮮半島の文化が日本に持ち込まれ、古代の日本文化・社会の形成に重要な役割をもつことになりました。

*

以上のように、今回の講演内容は、早乙女先生のこれまでの研究に触れる興味深い機会でした。今後、今回の講演を拝聴した学生のなかから、一人でも多く大陸の考古学に興味をもってくれればと思います。最後に、「ご多忙のなか、ご講演をお引き受けくださった早乙女先生に感謝申し上げます。文責・助教授 小林 青樹

日々成長

私が入社してから十ヶ月が経過とうとしています。十ヶ月というと赤ちゃんがちょうど生まれるくらいの長い長い時間ですが、私にとっては本当にあつという間でした。毎日が充実している証だと思えます。

私の働いている会社は東京に本社があり、各地にセンター(支店)が存在しています。各センターには女性一人が配属されていて、一人で事務をこなしています。ですから、女性一人に対して、男性が数名という職場です。男性はセンターにすることがほとんどなく、私が一人になることも多いです。

プロフィール

満留谷あゆみさん

栃木県宇都宮市在住。
栃木県立宇都宮商業高等学校情報処理科を卒業し、國學院大學栃木短期大学商学科に入学。
卒業後、株式会社アイ・エイチ・アイ・ロジスティック・テクノロジへ入社。



職場の先輩方と

そういった中で私がしなければならぬことは、皆が働きやすい職場環境を作ることだと思っています。仕事柄、男性社員は不眠不休で仕事をするといいこともありますが、疲れて帰ってきて、自分の机が汚なかったらやる気ななくしますし、探している資料がきちんとファイルされていなかったら困りますよね。当たり前のことですが、仕事に追われていて自分の仕事で一杯という時はなかなか難しいことです。

生き生き卒業生 ②

まだまだこれから！

第39期生商学科 満留谷あゆみ

周りに気を配り、何を私に求めているかに気づき、顧客先からも会社の人間からも信頼される人材になるのが私の目標です。そのために今自分にできることを着実に増やしています。毎日少しずつ、小さなことでも成長していけたらいいなと思っています。

仲間との出会い

入社して三ヶ月くらいの間は本社に行き、研修だ！！会議だ！！懇親会だ！！などと嵐のような日々を送っていました。私には同期が男女合わせて十二名いて、二十歳から二十七歳と色々な人がいます。

ですが、年が違えば『同期』なのです。最初にはぶちあたる壁も悩み始める時期も大体が一緒で、研修が終わって皆でホテルに戻ると同期だけで飲みなおいし、仕事を通して楽しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったこと、反省しなければいけないことなど沢山あり仲間と話し合います。皆考え方も違っ

ので、色々なことを吸収できます。友達とも違うけれど、会社の人という冷たい関係でもない。同期は分かり合える仲間です。

仕事中は、社内メールでやりとりをしたり、仕事のやりかたについて相談したりしています。休日是一緒に買い物に出かけたり、旅行に行ったりすることもあり、本当に楽しんでいます。

『しっかり仕事をして、しっかり遊ぶ』これが私の今のモットーです。休日の仕事のことばかり考えていては心も体も休めないのです。休日は仕事のことを考える暇が無いくらい、思いっきり遊びを楽しんでリフレッシュしています。生活にメリハリがついて、仕



休日を楽しむ満留谷さん(左)

事頑張るぞー！という気持ちになります。

これから

入社してからあと二ヶ月で一年になります。今年の春には私の先輩ができるわけですが、自分ではまだまだ新人気分が抜けていません。ミスなども少ないとは言えず、上司にいつも助けられています。

仕事に慣れてきて一通りのことが自分だけでもできるようになったという意味では成長できていますが、人間的な部分では学生の時から考えるようになった変わりがあります。入社したばかりのときは、要領も悪く焦りもあり、ミスをすることも多くありました。あるときは私のミスで、先輩が顧客先に電話をかけて頭を下げながら謝るということもありました。それでも、こんな私を絶対に見捨ててようなことはありませんでした。本当に、仕事も人間的にも立派な方ばかりなのです。先輩方は私の目標でもありますし、とても尊敬しています。私に先輩ができたとき、そう思ってもらえるような人間になりたいと思います。

書道研究室便り

佐伯司朗先生故郷で個展開催

平成十八年九月九日より二十四日まで、佐伯司朗の世界展（小野町教育委員会主催）が福島県小野町「ふるさと文化の館美術館」で開かれた。小野町は、佐伯先生の故郷であり、地元の熱い要望により開催された。

初日の講演会で佐伯先生は、現代に生きる書作家として、文化を継承する重要性と新しい試みに対する意気込み、宮内庁文書専門員の仕事等を話された。

展示会場には楷書作品、色



作品に見入る大勢の来場者
（ふるさと文化の館美術館）

彩作品、現代詩などの大作が並べられ、訪れた大勢の来場者が作品に見入り、好評を博した。佐伯先生は、「二週間の会期中、新聞やインターネットでこの個展を知った本学卒業生たちが、県内外よりわざわざ来館してくれたことが何より嬉しい」と語られた。

また佐伯司朗先生は、左記の三点に分担執筆され、また作例などを紹介されている。

「魅力ある 漢字臨書手本」
（旬書藝文化新社刊）

「知りたい！成りたい！職業ガイド 書道にかかわる仕事」
（朝日出版刊）

「書家120人の年賀状 十二支ハンドブック2」
（朝日新聞刊）

五年ぶりの伍申書会展開かれる
十一月二十三日から十一月二十七日まで栃木県総合文化センター・ギャラリーで、県下の書家石川善克氏・柿沼翠流氏・館沼天游氏・丸山曉鶴氏・村井久子氏と本学講師田中曉亭先生の六人による「伍申書会展」が開かれた。

伍申書会展は平成四年に第一回展が開かれ、その後十回

展で一度うち切られたが、今回五年ぶりに開催された。各会派の代表である先生方が集まり、こうした会派を超えた書展を開くことは大変珍しく、参観者の注目を浴びた。

第四十回 書道部校外展
斯花 書展



（栃木市文化会館小ホール）

書道部校外展「斯花書展」が一月十九日から二十一日まで栃木市文化会館で開催された。この校外展は一般の方々に本学書道部の作品を見てもらうことを目的に毎年開催され、今年で四十回目を迎えた。

今回は共同作品として、市内の太平山神社と神明宮の二碑の拓本を採り展示した。来場者からは、「とても良い試みだ」と感想が寄せられた。また部門の関係で日書展に出品できなかった作品や卒業生の

大作をも展示し、書道部の伝統と実力を伝えることができた。

日書展開かれる

第六十一回「日書展」へは田中曉亭先生、佐伯司朗先生、佐伯方舟先生、坂本司進先生、相司禮先生が役員出品し、卒業生・在校生が入選入賞した。昨年度より毎日書道展の締切が五月初めになったため一年生にとっては今回の日書展が全国展への初出品となった。かな部二科に本学聴講生三名が入賞し、在学生の八名が入選した。

平成18年度 国文学科公開講座 開催
日本文学における〈男〉と〈女〉

1月27日	恋愛の近代	講師	大山 尚
2月3日	雨月物語にみえる夫婦像	教授	田中憲二
2月10日	芭蕉俳諧における「恋の句」	教授	塚越義幸
2月17日	平維盛と北の方	教授	千明 守
2月24日	平安文学におけることばの位相	教授 博士(文学)	南 芳公
2月3日	光源氏と女君たち	国文学科長 教授 文学博士	林田孝和

（毎回2時～3時30分） 栃木学園教育センター



大山尚講師の話に耳を傾ける受講生

日本史学科卒業展示開催中

二月十五日から参考館にて平成十八年度日本史学科卒業展示が開催されている。

本展示は、二年生が主体となった、学生の手づくりの展示である。展示の内容は、平成十八年度における、各コースのゼミの研究成果をパネルによる展示として公開するものである。展示を見学した日本史学科一年生は、自分が専攻を希望するゼミの展示の写真と解説に興味をもち見学していた。

就職とは・・・

一年生対象就職ガイダンス

福田屋百貨店人事企画部の
大竹 由紀氏

十二月十一日、栃木県若年者雇用促進機構の協力により就職ガイダンスが行われた。

ガイダンスは高森良友学生課長補佐の司会で進められた。栃木銀行人事部調査役戸田陽一氏、栃福田屋百貨店人事企画部大竹由紀氏より、社会における企業の役割、企業の求める人材としてコミュニケーション能力や順応性がある人、明るく意欲的で笑顔を絶やさず敏速に行動できる人などが挙げられた。

つづいて、(社)星野会に内定した塚原沙紀さん(家政学科二年)、電気興業(株)に内定した菊地奈緒美さん(商学

科二年)より、就職活動を始める前に自己分析をすること、複数のリクルートナビに登録して情報を得ること、積極的にセミナーに参加することや面接でのエピソード等、経験に基づいたアドバイスがなされた。最後に、とちぎ就職支援センター大塚雄一氏より、就職活動全般に関する説明がなされた。

自分の進む道を明確に

一年生対象進路ガイダンス



詳しく説明する河田美恵子教授

二月二十一日、全学科一年生対象の進路ガイダンスが開催された。「一般企業」、「教員・公務員」、「編入学」の三部構成で、学生は希望する分野に参加した。今回は、それぞれの配布資料とともに進路

希望調査票を全員に配布し、同月二十四日までに提出することとした。

一般企業ガイダンスは、商学科の協力を得て、企業を知り、人材として企業に求められる人物になる観点から指導がなされた。大塚泰博講師より「就職をめざす若人へ」として人材の需要と供給に関する現状と課題についての説明がなされた。つづいて、河田恵美子教授より「企業が求めている人材は、求められる人であるには」として、社会で活躍できる人や社会人として必要な能力などについての説明と、自己分析から始まる就職活動の流れの中で、特に大切な事柄についての説明に加え、面接を受ける際の心得や自己PRの仕方などについて詳細に説明された。

教員・公務員ガイダンスは高森良友学生課長補佐が担当し、公務員・教員採用試験、幼稚園教諭採用試験の種類と形態、受験の心構えなどについて説明された。

編入学ガイダンスは春日洋教務課長補佐が担当し、編入学試験の概要と本学の実績等

について今後のスケジュールに基づいて説明された。

二年生教養講座
年金セミナー

一月二十日、午前十一時より一時間にわたり西三号館七三五番教室において、二年生教養講座「年金セミナー」を実施した。担当講師は商学科飯田晶夫教授で栃木社会保険事務局年金課の協力をえ、受講者一〇名で行われた。

この講座は成人年齢に達し、卒業を間近にした二年生に対して将来の生活を考える教養として正しい年金制度知識を身に付けるために行われたものである。飯田教授作成の資料は年金制度の概要を具体例をあげて示したもので、

飯田晶夫学科長の説明に
聞き入る学生たち

年金は老後のことと漠然と捉えていた学生たちは日常の生活と密接に繋がっていることを知り認識を新たにした。またしっかりと定職に就くことが年金受給額と深く関わること女性の立場から見た年金の重要さも学んだ。

大木昌一先生 ご逝去



平成十四年三月まで、初等教育学科の教科専門科目・理科(化学)をご担当いただいた大木昌一先生が一月八日逝去された。享年六十八歳

先生は、昭和三十一年三月栃木県立栃木高等学校を卒業、昭和三十五年三月宇都宮大学学芸学部を卒業後、昭和三十七年四月より宇都宮大学にご勤務。本学へは、兼任講師として平成五年四月より九年間お勤めいただいた。慎んでご冥福をお祈りいたします。

平成18年度 サークル活動報告 (日程順)

団体名	期 間	内 容
剣道部	4. 1～4. 2	新入生歓迎合宿及びOB・OG稽古会(鎌成館)
一 部	4. 6～4. 8	入学式祝賀演奏・1年生歓迎会のための強化練習(千葉県岩井海岸いとうRYO)
室内楽研究会	4. 6～4. 8	入学式祝賀演奏・1年生歓迎会のための強化練習(千葉県岩井海岸いとうRYO)
剣道部	5. 5～5. 6	第38回関東女子学生剣道選手権大会に出場(東京武道館)
書道部	5. 9～5. 10	新入生歓迎会と毎日書道展出品作品制作(鎌成館)
学道部	5. 11～5. 12	体育祭の準備(鎌成館)
剣道部	5. 14	第52回関東学生剣道選手権大会に出場(日本武道館)
レレニス	5. 27	佐野短期大学との交流試合(40周年記念館)
バテニス	6. 2～6. 3	新入生歓迎会(鎌成館)
室内楽研究会	6. 4	平成18年度楽器別講習会に参加(都賀町立都賀中学校)
茶道部	7. 5～7. 6	七夕茶会に向けての強化稽古(鎌成館)
近代史研究会	7. 13	江戸城・江戸東京博物館の見学
東洋史研究会	7. 13	国立国会図書館・神田古書街の見学
フットサル部	7. 14～7. 15	技術向上のための練習と親睦会(鎌成館)
空手部	7. 14～7. 15	技術向上のための練習と親睦会(鎌成館)
マジック研究会	7. 17～7. 19	技術向上のための練習と親睦会(鎌成館)
中国語研究会	7. 21	中華料理や中国茶を通して中国文化を知る(横浜中華街)・関羽廟の参拝
国語研究会	7. 21	横浜中華街の散策と関羽廟の参拝
民俗学研究会	7. 22～7. 23	八雲神社(那須烏山市)の山あげ祭の見学とその民俗や歴史の調査・探求(自然休養村センターロッジこぶし)
近代史研究会	7. 24	靖國神社遊就館の見学
世史研究会	7. 24～7. 26	上田城・常願寺・真田城・信綱寺等を見学し、真田氏や北条氏に関する史跡を調査(上田プラザホテル)
テニス部	7. 24～7. 27	技術向上のための練習と親睦会(芦野温泉)
古代史研究会	7. 26～7. 28	比叡山延暦寺・東大寺・正倉院・飛鳥地方・風俗博物館・二条城の見学(京都・奈良)
古物研究会	7. 27	神奈川県立歴史博物館の見学
バテニス	7. 27～7. 29	全国大会に向けての強化練習(鎌成館)
卓球部	7. 29	佐野短期大学において交流試合
卓球部	8. 1～8. 3	第41回全国私立短期大学体育大会に出場(新宿コズミックセンター)
テニス部	8. 1～8. 3	第41回全国私立短期大学体育大会に出場(小田原テニスガーデン)
バスケットボール部	8. 1～8. 4	第41回全国私立短期大学体育大会に出場(日本体育大学)
バドミントン部	8. 1～8. 4	第41回全国私立短期大学体育大会に出場(小田原アリーナ)
バレエ部	8. 1～8. 4	第41回全国私立短期大学体育大会に出場(小田原アリーナ)
考古学研究会	8. 3～8. 12	新潟県長岡市山下(さんか)入道跡での考古学実習・新潟県立歴史博物館の見学
写真部	8. 7～8. 10	六道珍皇寺・西福寺・六波羅密寺・興正寺・養源院・法伝寺の見学と聞き取り調査(興正寺宿坊)
児童教育研究会	8. 22～8. 23	知識と技術の向上を目的とした撮影研修と親睦会(武蔵野キャンパス)
児童教育研究会	8. 22～8. 23	キャンパファイヤーの運営を理解し、部員の見学を深める(栃木県立太平少年自然の家)
千城壇	8. 24～9. 1	栃木県栃木市城内町古墳群(円通寺境内)での考古学実習(鎌成館)
千城壇	8. 28～8. 29	平家物語に関する遺跡巡り(鎌倉・あじさい荘)
ミラリス	8. 30～9. 1	卒業論文の指導と親睦会(Pignion軽井沢)
室内楽研究会	8. 31～9. 2	新花祭・定期演奏会に向けての強化練習(菅高原プラザホテルボンタック)
室内楽研究会	9. 1	栃木市議会議場コンサート(栃木市議会議事堂)
田中(正)部	9. 1	近代史卒業研究中間報告会(第2学生指導室)
フットサル部	9. 30	他大学との交流ライブ(ハードロックハウス)
世史研究会	10. 1	皆川城・金剛寺・芝崎山など栃木市内の城跡・寺院・神社を調査
室内楽研究会	10. 8	第18回蔵の街音楽祭に参加(栃木市文化会館)
茶道部	11. 1～11. 2	新花祭に向けての稽古(鎌成館)
フットサル部	11. 4	白鷗大学との交流試合(本学園第2体育館屋上)
書道部	11. 4	栃木市文化祭に参加(栃木市文化会館)
新書部	11. 7～11. 8	新花祭展示作品の制作(鎌成館)
東洋史研究会	11. 14～11. 15	新花祭の準備(鎌成館)
東洋史研究会	12. 10	湯島聖堂・江戸東京博物館で資料収集
東洋史研究会	12. 12	足利学校で参考館展示の資料収集
室内楽研究会	12. 17・12. 21	アンサンブルコンテストに向けての強化練習(栃木市文化会館)
室内楽研究会	12. 17	クリスマス会(栃木市保健福祉センターレクリエーション室)
箏曲部	12. 19	すみれ保育園(小山市)のクリスマス音楽会で演奏
人形劇部	12. 20～12. 21	定期演奏会に向けての強化練習(鎌成館)
室内楽研究会	12. 22	定期公演会で「ベンゼルとグレーテル」上演(栃木市文化会館小ホール)
書道部	12. 26	栃木県アンサンブルコンテストに出場し、金賞を受賞。東関東大会出場権を獲得
室内楽研究会	1. 18～1. 21	新花祭展示外展(栃木市文化会館)
室内楽研究会	1. 27	第12回関東アンサンブルコンテストに出場し、銀賞を受賞。栃木県総合文化センター)
室内楽研究会	2. 3～2. 4	石川幼稚園(宇都宮市)の保護者会における託児ボランティア
室内楽研究会	2. 3～2. 4	第29回定期演奏会で演奏(栃木市文化会館)
バレエ部	2. 8	第29回定期演奏会で演奏(栃木市文化会館)
写真部	2. 19～2. 20	江戸東京博物館の見学
写真部	2. 21～2. 22	技術向上のための練習(鎌成館)
児童教育研究会	2. 23	栃木市第6地区コミュニティセンターにおけるイベントで写真を展示
児童教育研究会	2. 24～2. 25	養護老人ホームあずさの里(栃木市)で訪問レクリエーション
児童教育研究会	2. 27	井桁の組み立てやキャンパファイヤーなどで宿泊学習の意義を学ぶ(栃木県立太平少年自然の家)
博物館学研究会	3. 2	国立歴史民俗博物館の見学

事 報

行事・集会

十二月	一日 集中・補習講義 二〇日 栃木県就職ガイダンス 二二日 日本史学科一年古文書調査実習 二三日 初等教育学科二年教育実習報告会 二五日 フードスペシャリスト資格認定試験 二七日 初等教育学科音楽発表会 二〇日 冬季休暇 二二日 授業再開 一月九日 初等教育学科卒業研究・制作提出 一二日 家政学科臨床実習発表会 一五日 二年生授業終了 一六日 二年生後期試験 三一日 年金セミナー 二〇日 初等教育学科卒業研究音楽発表会 三二日 日本史学科講演会 二二日 一年生授業終了 二四日 第29回合唱団定期演奏会 二〇日 一年生後期試験 二二日 A方式入学試験 二五日 卒業確定者発表 二二日 進路ガイダンス 二二日 商学科一年日産自動車栃木工場見学 二二日 日本史学科卒業研究発表会・史学会総会 二六日 家政学科一年生普通教員講習会 二二日 B方式試験入試 二七日 卒業式予行・成績表交付 二八日 第40回卒業式
本学および関係者出版紹介	○本学発行 國學院大學栃木短期大學紀要第41号 ○本学国文学会発行 野州國文學第78号・79号 ○本学初等教育学会発行 夏期教育研修の記録第39集 ○本学史学会発行 栃木史学第21号 ○本学商学会発行 國學院商学第16号 ○五百澤智也非常勤講師著「山と氷河の図譜」―五百澤智也山岳図集― ニシヤ出版刊
ナカ	

卒業生の皆さまへ

事務局告知板

卒業生の皆さんと大学との連絡窓口は教学部です。
卒業後も皆さんのためにお世話したいと思っています
ので、折にふれ母校を思い出し、連絡を絶やさぬよう
お願いします。

■教務課より■

【各種証明書の交付申請について】

単位成績証明書・卒業証明書・人物証明書・推薦書などの発行は、原則として申請を受けてから3日後になる。できる限り期間に余裕をもって申請すること。手数料は、各1通200円。現金または郵便切手で納入すること。

郵便による申請

必要事項（卒業年月日、学科、在学時の組・番号、氏名、本籍地、生年月日、提出先、用途、証明書の種類など）を明記した別紙、手数料、返信用封筒（宛先明記・返信用切手貼付）を同封のうえ、郵送する。

指定用紙がある場合は、必ず同封すること。

電話・FAXによる申請

必要事項（前記）を電話・FAXで連絡する。

証明書は請求書を同封して郵送するので、着信後、その請求書とともに手数料と郵送料を納入する。

【教員免許状授与証明書の申請について】

授与権者である栃木県教育委員会教職員課へ申請する。

授与年月日

授与番号 (例)「中2種〇〇号」

免許教科名 (例)「家庭」〔注〕中学校教諭のみ

卒業年月日・國學院大學栃木短期大学

以上 4 項目を明記した別紙、手数料420円（現金または栃木県収入証紙420円分）、返信用封筒（角 2 ・ 宛先明記・返信用切手370円分貼付）を同封のうえ、下記宛に申請すること。

住所 〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

名称 栃木県教育委員会事務局教職員課

電話 028-623-3391

【教員免許状・諸資格証明書・卒業証書の写しの提出について】

各自の手元にある教員免許状・諸資格証明書・卒業証書

を文面通りに書き写し、発行者印・契印の枠を赤鉛筆で明示して提出する。または、コピーに原本を添えて提出する。なお、写しに証明印が必要な場合には、それぞれ授与権者・教務課でその証明を受けること。

【戸籍に異動が生じた場合の手続きについて】

各種証明書に関して

戸籍抄本と、卒業年月日、学科、在学時の組・番号、氏名（旧姓）を明記した別紙を、教務課へ提出すること。この手続きをとらないと、証明書は旧姓での発行となる。

教員免許状に関して

戸籍抄本および、前記 ～ の事項を明記した別紙を、
栃木県教育委員会事務局教職員課へ提出すること。

■ 学生課より ■

学生カードには卒業後の記録も記入しておきたいので、氏名、住所、電話番号、勤務先等の変更があった場合は、必ず連絡すること。卒業生名簿の管理や学報等の送付に役立たいと思う。また、卒業後も就職についての相談にのれると思うので、必要な場合は連絡すること。

図書館のアフターサービス

図書館は全学の学生・教職員に奉仕する機関であることは常々口にしてはいることですが、図書館の持つ諸機能は卒業生に対しても同様の働きを持っています。

【レファレンスワーク】

参考業務の便利さは、一度利用した人ならご存知だと思うが、近くの人なら電話で、遠方の人なら文書で質問を寄せていただきたい。調査のうえ回報することは、在学生と同様である。遠慮なく利用していただきたい。

【閲覧・貸出・複写サービス】

ルールさえ守ってもらえれば、どんな要求にも応じることができる。

学外利用者の登録をすれば、館外貸出も可能。複写依頼にも応じている。

【日曜開館】

永久に続けるつもりで始めたものである。ご利用いただきたい。

もとところ

もとつころ 新たな環境に向かう四十期生が、速やかにそれぞれの環境に順応し、成功する秘訣をいえば、それは、本学で学び培った教養人としての良識をもつて行動・実践すること。

教養人とは、学問・知識によつて養われた豊かな心で行動できる人のこと。その人の日常の行動が、周りのどの人をも悦ばせ、楽しませることができれば、その人は教養人として認められる。教養人の行動は、礼儀に適い、他を想う心遣いが細やかで、己を慎んでいるはず。

反対に、自分の姿をかえりみず、他人からどう観られているかを思わない者は、常に周りの人を不愉快にさせる。自分本位で礼儀をわきまえない、粗暴な振る舞いは論外。心のこもらない、おべっかや、おざなりな人との交わり方は、人間関係をつくるうえで最も大事な信用を失ってしまつたろう。

卒業生諸兄妹のお幸せをひたすら祈ります。

(好)